

4) 地域力・教育力の現状と課題

(1) 地域の定住条件の現状と課題

林業を主産業とする浜松市天竜地域において、住民の生活を支える「地域力」は、林業・木材産業の「生産力」や山村の「雇用力」を存続させていく基盤となる重要な要素である。

そのことを踏まえ、「地域力」としての地域の生活基盤の現状、定住条件上の課題対象地区の地域力の現状を把握し、それぞれの分野（人口、交通、教育、医療・福祉、買物、就業・雇用、公共公益施設の立地 等）における課題を明らかにするため、地域の定住条件に関する統計データ等の整理を行う。

① 人口

浜松市全体としては、戦後一貫して人口は増加しているが、引佐を除く中山間地域で昭和 35 (1960) 年以降、人口が減少している。

特に、1960 年～2000 年の 40 年で、春野、佐久間、水窪、龍山地域では減少率が 50%を超えている。ちなみに、1960 年の一時的な人口増加は、佐久間ダム、秋葉ダム（龍山）の工事関係者、峰之沢鉱山（龍山）の最盛期のためと推測される。

人口構成比を見ると、上流部各地域で高齢化傾向が顕著であることがわかる。特に、佐久間、水窪、龍山では高齢化率がほぼ 50%に近く、高齢者のみの世帯、高齢者の一人暮らしの世帯比率も高い。これらの地域では、人口減少に加え、高齢化による地域コミュニティの維持が困難になっている地域も多い。

図表 3-4-1 中山間地の集落の状況

中山間地域の集落の状況

	浜松市 全体	中山間地域 合計	天竜 地域	春野 地域	佐久間 地域	水窪 地域	龍山 地域	引佐対象 地域
中山間地域内集落数		336	80	41	37	34	34	110
65歳以上人口が50%を超える集落数		219	39	33	26	39	29	53
65歳以上人口が70%を超える集落数		102	14	7	24	22	22	13
65歳以上人口が70%を超える集落数		25	2	1	4	12	4	2
1集落あたりの平均世帯数		42.7	93.5	48.3	57.5	35.9	17.6	10.0
世帯数	286,454	14,339	7,481	1,982	2,129	1,255	393	1,093
人口(人)	792,104	35,565	21,316	5,690	4,897	2,963	872	3,700
高齢者数	174,794	14,900	5,460	2,259	2,415	1,541	475	1,289
高齢者のみ世帯数	54,419	4,519	1,963	664	377	561	168	265
うち高齢者一人暮らし世帯数	28,022	2,275	951	322	498	273	77	143
高齢化率	22.1%	36.3%	30.5%	39.9%	49.3%	47.0%	48.9%	34.8%
高齢者のみ世帯率	18.2%	31.5%	24.5%	33.5%	45.3%	44.7%	42.7%	25.9%
高齢者一人暮らし比率	9.4%	15.9%	12.7%	16.2%	23.4%	22.2%	19.6%	13.6%

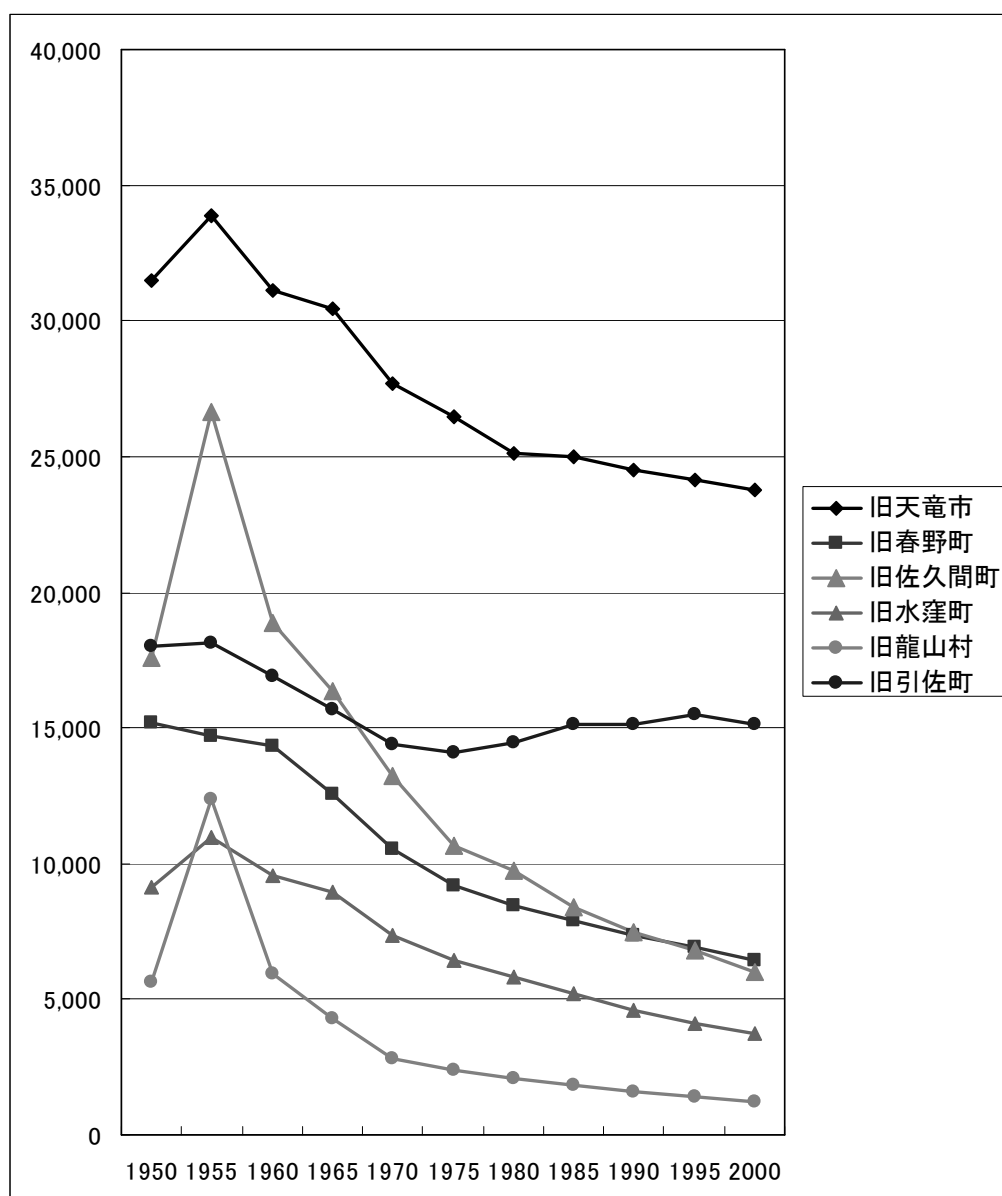
<注> 住民基本台帳 2009 年 4 月 1 日現在

・引佐対象地域＝旧鎮玉村および旧伊平村

・地域によっては、集落を自治会単位で捉えているものと、自治会内の班・組などの単位で捉えているものがある。

図表 3-4-2 旧市町村ごとの人口推移

	昭和25年	昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000
浜松市全域	494,327	555,144	568,214	598,076	631,284	672,261	698,982	728,300	751,509	766,832	786,306
中山間地域	97,039	116,647	96,769	88,238	76,021	69,155	65,627	63,457	60,677	58,787	56,231
旧天竜市	31,461	33,844	31,122	30,438	27,716	26,451	25,126	25,008	24,519	24,113	23,747
旧春野町	15,187	14,683	14,344	12,548	10,531	9,170	8,437	7,877	7,372	6,897	6,414
旧佐久間町	17,607	26,671	18,858	16,351	13,213	10,657	9,729	8,401	7,444	6,777	6,008
旧水窪町	9,122	10,947	9,582	8,961	7,339	6,422	5,803	5,228	4,608	4,112	3,723
旧龍山村	5,636	12,345	5,929	4,288	2,808	2,362	2,082	1,830	1,619	1,410	1,236
旧引佐町	18,026	18,157	16,934	15,652	14,414	14,093	14,450	15,113	15,115	15,478	15,103



出典:「浜松市中山間地域振興計画(案) 山里いきいきプラン」2009年浜松市パブリックコメント資料

② 交通

対象地区は南北に長く、天竜川および支流の溪谷に沿って道路が作られているため、特に水窪、佐久間など天竜地域北部へのアクセスは良くない。

浜松駅と遠州鉄道により 30 分で直結する西鹿島駅を基点として、各地区の基幹集落(地域自治センター)までの道路距離は水窪=45km、佐久間=37km、春野 23km、龍山=18km、引佐(伊平)=21km と、いずれも車でのアクセス時間が 30 分～1 時間 30 分となっている。

鉄道は、水窪、佐久間には JR 飯田線の駅があるが、飯田線は愛知県・長野県の都市に出かけるには本数が少なく、飯田線が愛知県、長野県へのアクセス基点となるとはいえ、生活路線としてはあまり利用されていない(佐久間、水窪住民ヒアリング)。

対象地において、日常の買物などで「マチに出る」先は旧天竜、浜北、旧浜松であり、近年道路整備が進んでアクセス時間が短縮されたことにより、一層その傾向が強まっているようである(各地域住民ヒアリング)。

人口減少により、公共交通としてのバス路線維持が困難になってきている。現在、多少地区内では、基幹集落を結ぶ民間路線バスは維持できているが、それ以外の集落間のバス路線はどこも存続のための策を講じる必要が生じている。

このような状況を受け、市ではバスの運行について、道路運送法の定めに従い以下のような区分けによりサービスが提供されている。

図表 3-4-3 路線バスの区分

区分	事業主体・対象路線	補助要綱、条例
乗合バス事業者が運行する乗合旅客運送(道路運送法第 4 条)	・遠州鉄道株式会社 ・秋葉バスサービス株式会社 ・浜松バス株式会社	○生活交通路線維持費補助金交付要綱(国、県、市補助) ○バス路線維持費補助金交付要綱(県、市補助) ○生活交通維持対策費補助金交付要綱(市補助)
乗合バス事業者が乗入れ困難な場合に運行する市営バス(道路運送法第 78 条)	・浜北コミュニティバス ・春野 100 円バス ・水窪市営バス	○自家用有償バス条例(市営バス)
医療機関や公共機関を結ぶ、道路運送法に規定されない市営無料バス(道路運送法に規定なし)	・佐久間福祉バス	○佐久間地域自治区福祉バス運送要綱(市営バス)

③ 教育

市内の学校・幼稚園の現状を見ると、昭和 63 年から平成 20 年までの 20 年間で児童数は 76% に、生徒数は 64% に減少している。生徒数の減少は市全体の課題であり、対象地域の水窪、佐久間、龍山などの児童数・生徒数の減少が顕著であるだけでなく、南部でも旧浜松市の中心部では生徒数は減少している。その一方で、ここ 3～4 年浜北区（浜北きらりタウンなどの住宅供給が続く）では人口が増加しているなど、地区ごとの格差が見られる。

対象地域では、平成 17 年の合併前から顕著な人口減少、少子高齢化の流れを受け、学校運営のあり方を旧市町村ごとに判断しつつ、学校問題への対応を進めてきた。合併以降は、浜松市教育委員会において小中学校あるいは幼稚園の統廃合問題を検討し、平成 20 年 3 月に「浜松市学校・幼稚園規模適正化基本方針」が策定（平成 21 年 3 月改訂）され、地域における学校規模の適性化の基準が定められた。

中山間地には安定した雇用がないため、仕事を求めて浜北や旧浜松市に引っ越す世帯も多く、対象地域の少子化に歯止めが利かない状況が続いている。また一般に、小規模校にはメリットとデメリットがあるが、中山間地の小規模校より一定規模以上の児童・生徒が集まる地域の学校にわが子を通わせたいと考える母親が多く、そういった流れが浜北地域の人口集積に拍車をかけているといえる。

◆小規模校のメリット

- ・家庭的な雰囲気の中で学習でき、生徒ひとりひとりが主役として活躍できる。
- ・教員、友達との関係が密で、子どもの実態を十分考慮した指導が可能。
- ・全校一体の活動が可能で、異学年との交流も生まれる。

◆小規模校のデメリット

- ・性別や学年などアンバランスな構成になりやすく、多様なグループ分けが困難。
- ・成績、人間関係などが固定化しやすく、交友関係の刺激や切磋琢磨が少ない。
- ・クラブ活動・部活動の幅が少ない。また、多様な考え方や見方の体験が困難。

対象地の対応を検討するに際し、現状でも新入生の見込みが少なく、旧天竜市でさえ 100 人程度に減少している。水窪地区では既に小学校も 1 校に統合され、離れた集落からの通学はスクールバスで対応している。小中学校に通う子どもを持つ親にとって、通勤通学は定住条件の大きな要素であり、住民ヒアリングにおいても子育て中の母親から「友人の家やクラブ活動など、何をするにも子どもを自家用車に乗せて送り迎えをする必要があり、仕事どころか自分の用事ができない」という声も聞かれたが、現実問題として、今後も各地区の実情に応じた対応をとらざるを得ない状況が続くと考えられる。

天竜区における廃校後の土地・建物については、合併前に旧市町村が地元と調整し、活用されているものと、具体的な活用が困難であるため未利用のままにされているものとがある。合併に伴い浜松市総務企画課と学校施設課が主導で、現状把握と活用方針の検討を行ってきたが、平成 20 年度には「中山間地の廃校・廃園の利活用に関する方針」が定められたのに続き、平成 21 年 4 月に「浜松市資産経営推進方針」がまとめられ、これら小中学校跡地の有効利用に一定の方針が定められた。さらに平成 21 年 12 月には浜松市企画部資産経営課と総務企画課が中心となり、以下の資産の有効活用（体育館、グラウンド、校舎等の施設に関する払い下げ・賃借の希望）を広く市民、事業者に公募する取り組みも開始された。

【利活用を募集している廃校・廃園】

1. 小学校・・・豊岡小（一部）、山香小、上平山小、門桁小
2. 中学校・・・下阿多古中（一部）、熊中、竜川中、春野東中、佐久間中、浦川中（一部）、龍山中
3. 幼稚園・・・佐久間幼稚園山香分園

図表 3-4-5 浜松市立学校・幼稚園の状況

（単位：人、校）

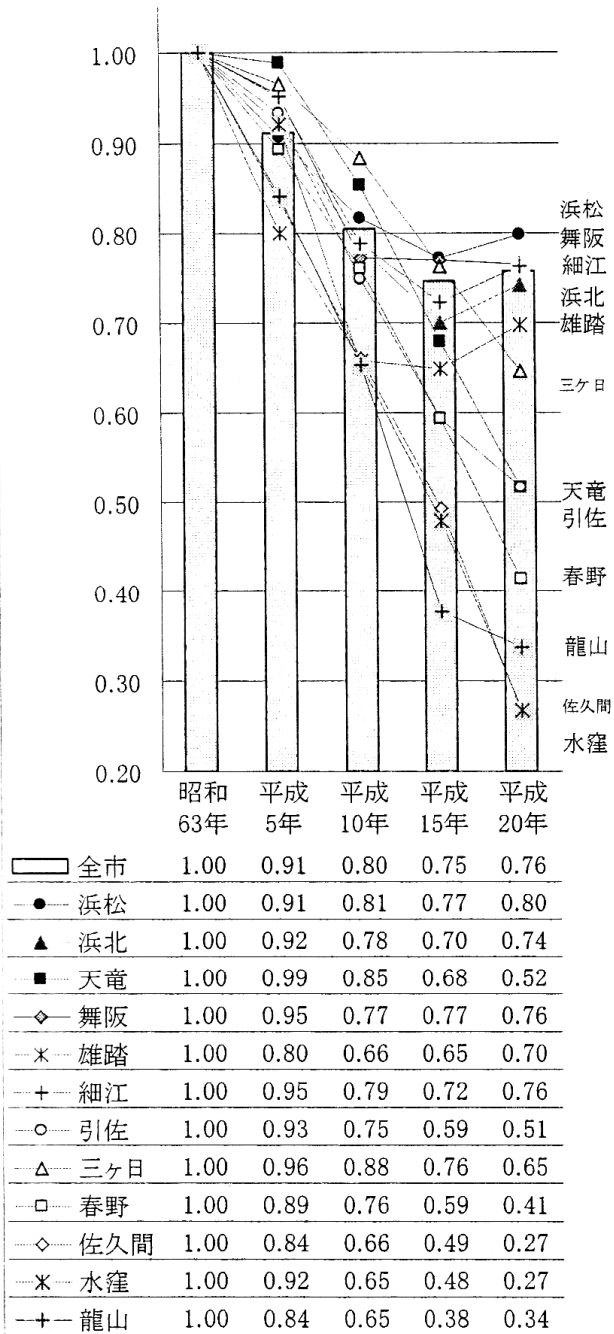
	人口 (人)	面積 (km ²)	小学校		中学校		幼稚園	
			児童数	学校数	生徒数	学校数	園児数	幼稚園数
浜松	601,571	257.01	35,024	65	15,471	33	2,306	24
浜北	86,838	66.51	5,249	12	2,384	5	1,289	15
天竜	22,122	181.79	951	7	580	2	234	7
舞阪	11,736	4.63	692	1	331	1	139	1
雄踏	13,859	8.15	874	1	393	1	308	1
細江	22,072	34.18	1,359	4	652	1	354	5
引佐	14,559	121.04	713	8	383	2	222	8
三ヶ日	15,877	75.65	844	5	466	1	82	4
春野	5,866	252.17	221	4	150	1	70	4
佐久間	5,336	168.53	124	3	96	1	63	3
水窪	3,103	271.28	86	1	65	1	0	0
龍山	1,093	70.23	34	1			7	1
全市	804,032	1,511.17	46,171	112	20,971	49	5,074	73

<注>平成 20 年 5 月 1 日現在、人口は平成 17 年国勢調査。面積は平成 19 年度都市計画基礎調査による。

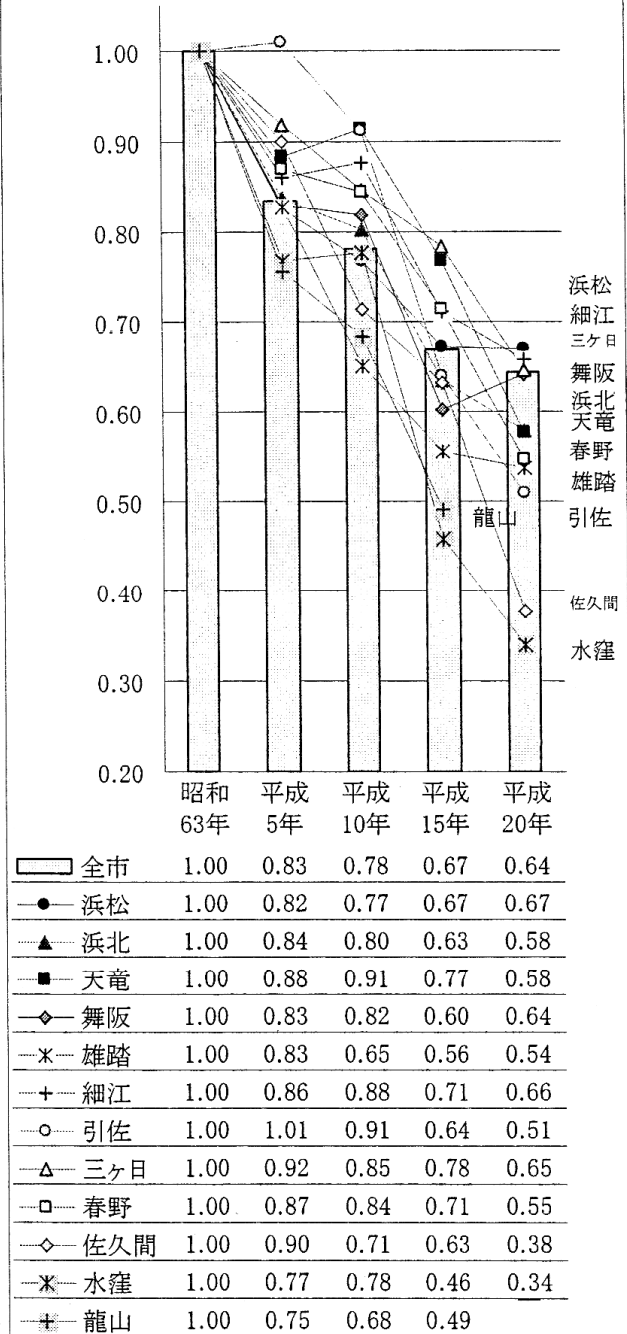
出典：「浜松市学校・幼稚園規模適正化基本方針」平成 21 年 3 月改訂、浜松市教育委員会

図表 3-4-6 地区ごとの児童数、生徒数の推移（昭和 63 年を 1 とした場合）

(1) 小学校児童数



(2) 中学校生徒数



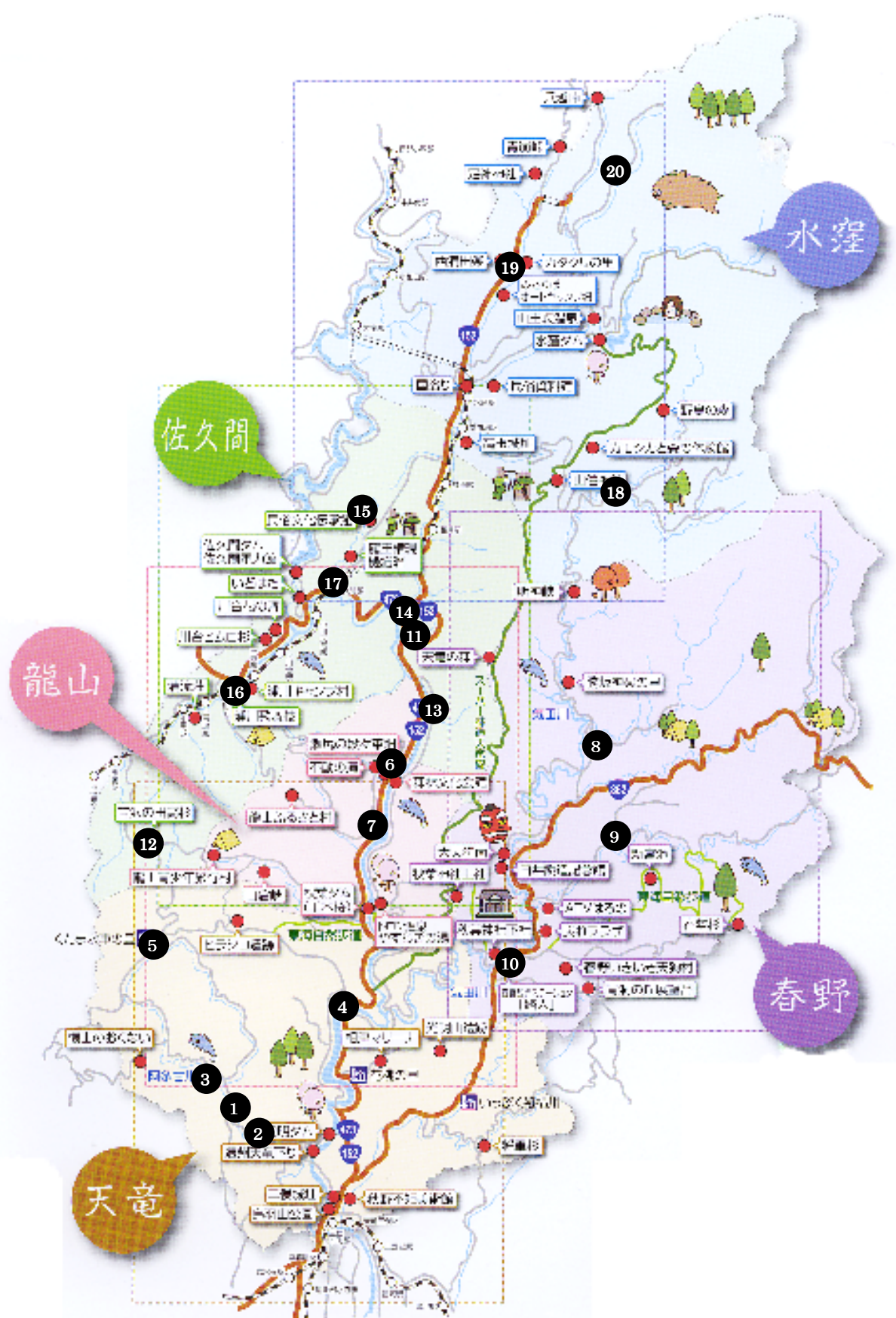
<注>毎年度 5 月 1 日現在、国立・私立・公立の計

出典：「浜松市学校・幼稚園規模適正化基本方針」平成 21 年 3 月改訂、浜松市教育委員会

図表 3-4-7 天竜区内の廃校の概況と現状

地図 番号	名称	所管	敷地面 積(㎡)	利用状況、貸付先、課題等
1	旧石神小学校	天竜区総務企画課	3,061	貸付中（→H2 年から「天竜ウッドワーク事業協同組合」が使用）
2	旧下阿多古中学校	天竜区総務企画課	13,837	未利用＝平成 21 年度利活用募集
3	旧上阿多古中学校	財務部財政課	5,477 (グラウンド箇所)	校舎は上阿多古公民館(平成 18 年度耐震補強済)、グラウンドはテニスコート(運動公園)として利用中
4	旧竜川中学校	天竜区総務企画課	19,614	未利用＝平成 21 年度利活用募集
5	旧熊中学校	天竜区総務企画課	1,365	未利用＝平成 21 年度利活用募集
6	旧龍山北幼稚園・ 小学校	天竜区総務企画課	5,781	未利用
7	旧龍山中学校	学校教育部学校施設課	10,199	未利用＝平成 21 年度利活用募集
8	旧豊岡小学校	天竜区総務企画課	7,588	貸付中（→自治会＝集会所等として使用）※平成 21 年度取壊し予定
9	旧春野東中学校	天竜区総務企画課	15,155	未利用＝平成 21 年度利活用募集
10	旧春野南中学校	天竜区総務企画課	17,963	未利用＝平成 21 年度利活用募集
11	旧佐久間幼稚園 山香分園	学校教育部学校施設課	1,151	老朽化＝平成 21 年度利活用募集
12	旧吉沢小学校	天竜区総務企画課	1,683	貸付中（→自治会＝移動診療所として使用・月 2 回）
13	旧上平山小学校	天竜区総務企画課	5,176	未利用＝平成 21 年度利活用募集
14	旧山香小学校	天竜区総務企画課	3,711	老朽化＝平成 21 年度利活用募集
15	旧佐久間小学校 羽ヶ庄分校	天竜区総務企画課	533	貸付中（→製茶事業者＝茶葉乾燥所）
16	旧浦川中学校	学校教育部学校施設課	11,333	未利用＝平成 21 年度利活用募集
17	旧佐久間中学校	学校教育部学校施設課	19,816	未利用＝平成 21 年度利活用募集
18	旧門桁小学校	学校教育部学校施設課	3,315	老朽化＝平成 21 年度利活用募集
19	旧西浦小学校	天竜区総務企画課	6,237	貸付中（→NPO 法人天竜森の学校が使用）
20	旧水窪小学校 大嵐分校	天竜区総務企画課	1,029	貸付中（→自治会＝集会所として使用）

図表 3-4-8 天竜区内の廃校の廃校の位置（番号は、図表 3-4-7 と対応）



④ 医療・福祉

対象地域において救急対応を行っている病院は、佐久間地区にある「国民健康保険佐久間病院」のみである。また、救急対応は行っていないものの、総合病院として一定規模の病床を整備している病院は、前述の佐久間病院（60 床）に加え、天竜地区の「天竜すずかけ病院（200 床）」と引佐地区の「引佐赤十字病院（99 床）」のみである。また、対象地域南部の住民は、実際には国立病院機構天竜病院（浜北区於呂）、浜松赤十字病院（浜北区小林）を利用するケースも多い。

一般の診療所のうち、内科および小児科を専門とする診療所は、図表 3-4-9 のとおり地区ごとに複数の施設が立地しており、かかりつけ医の存在、プライマリーケアはそれほど大きな不安要素ではない。しかしながら、救急時の搬送対応・受入れ先病院までの到達時間に対する不安は、定住条件の大きな不安要素である。実際、住民ヒアリングにおいても、水窪、春野（特に杉・川上地区）など、救急対応病院までのアクセスが遠い地区では不安の声が聞かれた。

高齢者を対象とする福祉施設については、合併前の旧市町村による福祉政策が異なっていたこともあり、地区ごとに差が見られる。天竜地区は、旧天竜市の人口集積に見合った福祉施設が立地している。また、佐久間町は、佐久間病院に隣接する特別養護老人ホーム「さくまの里」を中心として、様々な高齢者の介護支援等のサービスを実施していることに加え、原則として地域住民全員が会員となる組織「NPO がんばらまいか佐久間」が多様な生活支援サービスを実施している。行政規模が小さかった龍山地区では、保健福祉センターに健康・福祉に関する行政機能を集約し、窓口となる拠点のワンストップ化を図っている。一方、基幹集落以外にも広域に小規模集落が立地する水窪や春野では、十分な施設があるとは言えず、社会福祉協議会、地域包括支援センターなどの拠点を中心に高齢者福祉のサービスを実施しているが、他の地区に比べ十分とはいえないのが現状である。水窪地区では、このような状況を改善するため、福祉関連 NPO「NPO フォーラム水窪」が、特に交通アクセスの良くなく高齢化率が極めて高い小規模集落などを対象に訪問サービス等を実施する動きが始まっている。対象地域は広く、行政による公的サービスが十分に行き届かない集落も多いため、佐久間や水窪で実施されている NPO の活動との連携は今後、よりいっそう不可欠なものとなると考えられる。

図表 3-4-9 対象地区内の主な病院（病床あり、救急対応を抽出）

病院・診療所名		診療科目	住所	病床数
天竜区	国民健康保険佐久間病院	内科・小児科・外科・整形外科・眼科・リハビリ科・救急・人間ドック	天竜区佐久間町中部	60 救急
	天竜すずかけ病院	内科・外科・整形外科・泌尿器科・リハビリ科	天竜区二俣町二俣	220
浜北区	国立病院機構天竜病院	内科・精神科・神経内科・呼吸器内科・消化器内科・小児科・外科・整形外科・呼吸器外科・泌尿器科・内分泌科・放射線科・リハビリ科・歯科・救急	浜北区於呂	312 救急
	浜松赤十字病院	内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・小児科・精神科・外科・脳神経外科・整形外科・形成外科・皮膚科・泌尿器科・耳鼻いんこう科・産婦人科・婦人科・眼科・肛門科・放射線科・歯科口腔外科・リハビリ科・リウマチ科・人工透析・救急・集中治療室・人間ドック・脳ドック	浜北区小林	380 救急
北区	引佐赤十字病院	内科・小児科・外科・整形外科・皮膚科・眼科・耳鼻いんこう科・リハビリ科・人間ドック	北区引佐町金指	99

図表 3-4-10 対象地区内の主な診療所（病床を持たない内科・小児科を抽出）

病院・診療所名		診療科目	住所
水窪	鈴木診療院	[内科][小児科][外科][産婦人科・産科][婦人科][放射線科]	天竜区水窪町奥領家
	亀井内科	[内科][小児科]	天竜区水窪町奥領家
佐久間	佐久間町国保 浦川診療所	[内科]	天竜区佐久間町浦川
	西渡診療所	[内科][胃腸/消化器科]	天竜区佐久間町大井
	山香診療所	内科 小児科 外科 整形外科	天竜区佐久間町大井
龍山	竜山診療所	[内科][外科]	天竜区龍山町戸倉
春野	春野診療所	[内科][胃腸/消化器科][小児科][外科]	天竜区春野町田黒
	春野診療所 砂川出張診療所	[内科][小児科][外科]	天竜区春野町砂川
	仁成堂小澤医院	[内科][小児科][外科][皮膚科]	天竜区春野町堀之内
	小泉医院	[内科]	天竜区春野町堀之内
	岡本医院	[内科][外科][整形外科]	天竜区春野町気田
	浅倉医院	[内科][外科]	天竜区春野町気田
	天竜吉田医院	[内科][神経科・精神科][放射線科][リハビリテーション科]	天竜区二俣町二俣
	金田医院	[内科]	天竜区両島
	象先堂鈴木医院	[内科][胃腸/消化器科][小児科]	天竜区二俣町二俣
	守田内科消化器科医院	[内科][胃腸/消化器科][小児科]	天竜区二俣町二俣
	二俣医院	[内科][外科]	天竜区二俣町二俣
	天竜こども医院	[小児科]	天竜区二俣町阿蔵
	森医院	[内科][小児科]	天竜区石神
	市川医院	[内科][小児科][産婦人科・産科][婦人科]	天竜区山東
	鈴木医院	[内科][小児科]	天竜区熊
	鈴木医院	[内科][小児科]	天竜区横山町
	林医院	[内科][小児科]	天竜区横山町
	引佐町伊平診療所	[内科]	北区引佐町伊平
	牧原医院	[内科][小児科]	北区引佐町井伊谷
	林医院	[内科][小児科]	北区引佐町井伊谷
	引佐町国民健康保険奥山 診療所	[内科]	北区引佐町奥山
	金指こどもクリニック	[小児科]	北区引佐町金指
	引佐町国民健康保険鎮玉 診療所	[内科][小児科]	北区引佐町四方浄
	引佐町国民健康保険奥山 診療所川名出張診療所	[内科]	北区引佐町川名

高齢者世帯支援、地域住民の手で 浜松・水窪の NPO

中山間地域で増加傾向にある高齢者世帯の生活を、地域住民の手で支援する仕組み作りが浜松市天竜区水窪町で進んでいる。地元「NPO フォーラム水窪」（平沢文江会長）が中心となって事業を展開。来年度からの本格始動を目指して試験的に高齢者世帯を巡り、地域課題の解消に向けて活動している。

同会は本年度、天竜区役所の高齢者世帯訪問事業「安心ネットワーク」の委託を受け、

2 人の会員が大嵐や西浦地区など町内でも

高齢化率が高い地区を中心に、27 軒の高齢者宅を月に 1 度のペースで訪問。健康状態や持病の調子、離れて暮らす家族がどれくらいの頻度で訪れているのかなどを確認するなどして現状把握を進め、各世帯に適したサポートの形を検討している。

高齢化率が 45%を超える水窪地域では、NPO フォーラム水窪のほか、市社会福祉協議会や地域包括支援センターなど各種団体による高齢者世帯の訪問事業が展開中。来年度からは水窪地区社会福祉協議会も事業を開始する予定で、各団体による連携の形が今後の課題となる。

「巡回する人数が増えることは決して悪いことではない」と話す平沢会長。「数年前までは集落単位で十分に支え合っていた。集落単位で完結せずに、水窪地域の住民全員で水窪地域の高齢者へ手を差し伸べられる仕組みが必要」と住民主導によるサポート体制の必要性を訴える。

高齢化率が高い山間部の集落では、民生委員の高齢化も危惧（きぐ）される。長尾地区で民生委員を務める森下弘健さん（73）は「委員の後継者を探すのも一苦勞。健康面で不安を抱える委員もいて、委員だけでは手に負えないというのも事実では」と話し、「孤独死する住民を出したくない。他地区からの支援は心強い」と同会の今後の活動に期待を寄せた。

来年度からは、本年度の経験を元に同会独自の活動を展開する予定。地域内から「見守りサポーター」を募集し、巡回する世帯も 60 軒前後に増やしていくという。



高齢者世帯を訪問し、世間話を交えながら健康状態などを聞き取っていく平沢会長（右）＝浜松市天竜区水窪町

⑤ 買物

対象地域の中核的位置づけとなる天竜地区に「遠鉄スーパー天竜店」、「あつみ」、「天竜ファミリータウン」などのスーパーマーケットが立地している。また、引佐地区では、中山間地の南部に位置する細江周辺にバロー引佐店、A コープ引佐店、マルモスーパーなどがある。しかしながら、その他の地域では小規模なスーパーが佐久間、水窪にある他はほとんどが個人商店程度であり、衣料や買回り品などは自家用車かバス・電車を乗り継がないと買物ができないのが現状である。

一方、人口増加傾向が続く浜北区では近年、郊外型大規模ショッピングセンターが複数立地し、広域からの買物客を集めているが、ヒアリングの結果、対象地区においても地元スーパーと使い分けつつ、これらの大規模ショッピングセンターを利用するケースが多いことが分かった。特に浜北区へのアクセスが比較的良好な天竜地区では36%が浜北区に流出。地元大型店および一般商店での高倍率が大きく減少している。春野地区においても浜北区へ27%、旧浜松市へ18%が流出し、地元商店での購買が減少している。北部の水窪、佐久間地区では、一部愛知県への買物も見られるが、天竜のスーパーと浜北地区のショッピングセンターを使い分けしているとの話が聞かれた（水窪では浜北流出が32%にのぼるが、佐久間は愛知県へ28%流出しているが地元商店も検討している）。また、この2つの地区では、通信販売の利用比率が高いことも特徴である（平成18年消費動向調査、住民ヒアリング等より）。

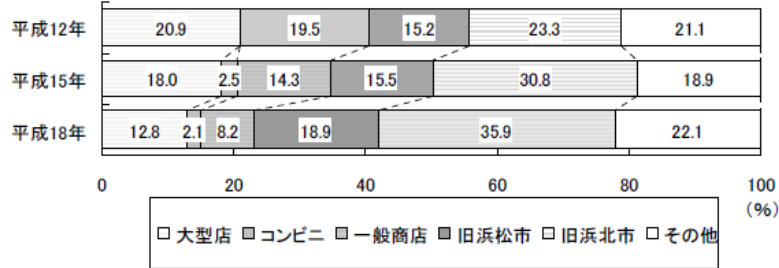
ヒアリングの結果、買物の足に課題がある北部地区などで、高齢者で自家用車を利用しない人たちは、浜北区や旧浜松市周辺に住む子ども夫婦に週末買物に連れて行ってもらうケースが多いこと、また、民間のワゴン車による個人経営の移動商店サービスがきめ細かく集落を巡回していることも確認された。

図表 3-4-11 浜北区の大規模ショッピングセンターの概要

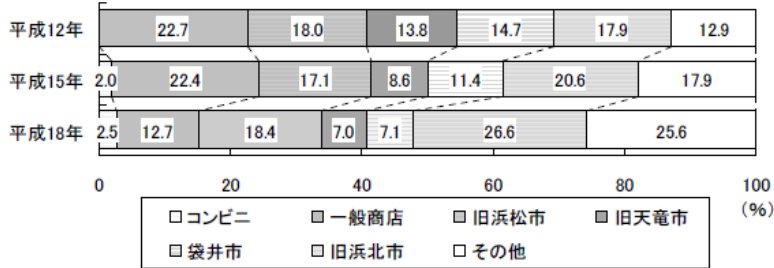
		店舗面積		駐車台数
サンストリート浜北	浜北区 平口	約 32,000m ² (西友 14,000m ²)	- 平成 19 年 7 月開業 - 核店舗=西友 - 天然温泉、シネマコンプレックス、専門店、フードコート 他	約 2,500 台
プレ葉ウォーク浜北	浜北区 貴布祢	約 52,600 m ²	- 平成 20 年 11 月増床オープン - 核店舗=アピタ(ユニー) - 大型家電・スポーツ専門店、専門店モール、レストラン、プレ葉ホール 他	約 3,000 台

図表 3-4-12 旧市町村（商工会地区）ごとの購買比率の推移

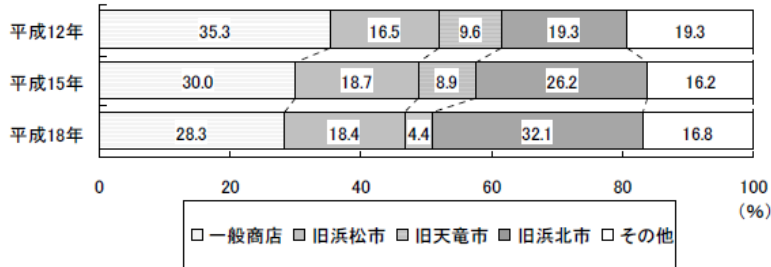
天竜市商工会地区〔浜松市〕



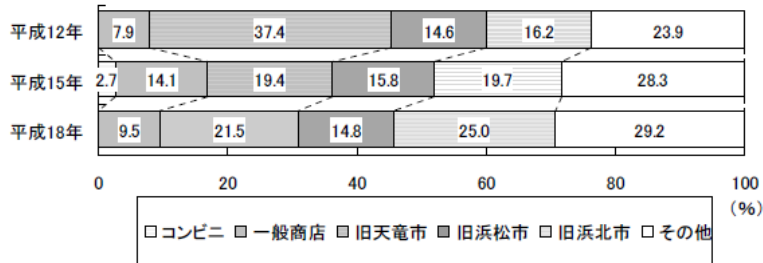
春野町商工会地区〔浜松市〕



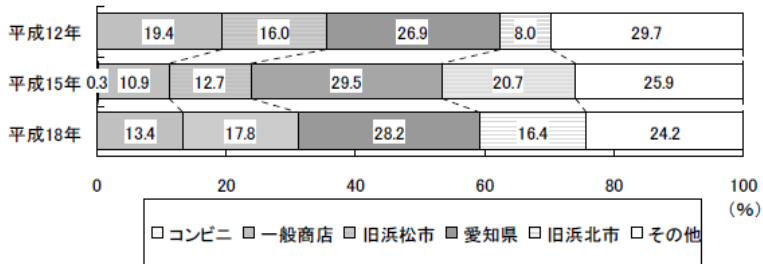
水窪町商工会地区〔浜松市〕



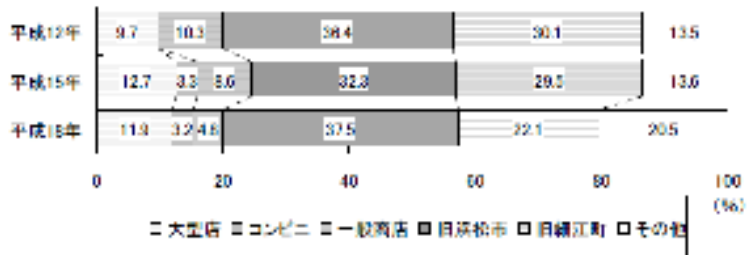
天竜市商工会（旧龍山村地区）〔浜松市〕 ※平成18年は「コンビニ」に該当する買物場所なし



佐久間町商工会地区〔浜松市〕 ※平成18年は「コンビニ」に該当する買物場所なし



引佐町商工会地区〔浜松市〕



出典：

『平成18年度 静岡県の消費動向』
（平成19年3月、静岡県商工労働
部商業まちづくり室）より

図表 3-4-13 浜北商圏の規模（平成 18 年静岡県消費動向調査）

- ・浜北商圏の商圏人口は 161,451 人で増加傾向。
- ・第 2 次商圏までに天竜区が全て含まれている。
- ・旧龍山村（26.2 ポイント増）、旧水窪町（11.9 ポイント増）で吸引率が大幅増加。

商圏	会議所・商工会地区			吸引率（％）		増減 （ポイント）
				平成18年	平成15年	
第 1 次商圏 (30%以上)	浜北商工会地区	旧浜北市	→	58.2	60.4	△ 2.2
	天竜市商工会（旧龍山村地区）	旧龍山村	↑	45.6	19.4	26.2
	天竜市商工会地区	旧天竜市	→	40.8	32.9	7.9
	水窪町商工会地区	旧水窪町	↑	39.5	27.6	11.9
	春野町商工会地区	旧春野町	↑	32.1	24.2	7.9
第 2 次商圏 (20～30%)	豊岡村商工会地区	旧豊岡村	→	27.5	29.2	△ 1.7
	佐久間町商工会地区	旧佐久間町	→	20.5	20.1	0.4
影響圏 (5～10%)	細江町商工会地区	旧細江町	新規	6.6	4.3	2.3
商 圏 人 口（人）				161,451	136,703	24,748

出典：『平成 18 年度 静岡県の消費動向』（平成 19 年 3 月、静岡県商工労働部商業まちづくり室）より

図表 3-4-14 天竜商圏の規模

- ・天竜商圏の商圏人口は 28,943 人で、大幅減少傾向（旧豊岡村、旧水窪町、旧春野町が商圏から離脱）。
- ・旧天竜市（15.2 ポイント減）、旧佐久間町（2.8 ポイント減）で吸引率が減少。

商圏	会議所・商工会地区			吸引率（％）		増減 （ポイント）
				平成18年	平成15年	
第2次商圏 （20～30％）	天竜市商工会（旧龍山村地区）	旧龍山村	→	21.8	21.8	0.0
第3次商圏 （10～20％）	天竜市商工会地区	旧天竜市	↓	14.1	29.3	△ 15.2
影響圏 （5～10％）	佐久間町商工会地区	旧佐久間町	→	5.2	8.0	△ 2.8
離脱地域	豊岡村商工会地区	旧豊岡村	↓	4.2	11.7	△ 7.5
	水窪町商工会地区	旧水窪町	↓	3.9	10.9	△ 7.0
	春野町商工会地区	旧春野町	↓	4.3	8.1	△ 3.8
商 圏 人 口（人）				28,943	50,698	△ 21,755

出典：『平成 18 年度 静岡県の消費動向』（平成 19 年 3 月、静岡県商工労働部商業まちづくり室）より

⑥ 就業・雇用

対象地区は、戦前は林業を中心に農業を営む農山村であったが、終戦直後の旺盛な林業需要に支えられ、一定の人口集積を持っていた。加えて、戦後の高度経済成長による電力需要に裏付けられ、佐久間ダム、水窪ダム、秋葉ダムなど大型の公共工事、峰ヶ沢鉱山の採掘最盛期などを迎え、昭和 20～30 年代には人口が一時的に増加した。公共工事や鉱山採掘などが一段落した後は、比較的安い地価や労働コストなどを背景に、水窪などでは企業誘致に成功したが、近年中核産業であった林業の衰退に加え、誘致企業の撤退も目立つなど、産業の空洞化が地域全体で見られるようになった。一方、道路整備は着実に進み、地域北部・水窪や佐久間から浜北・旧浜松市内へのアクセスが飛躍的に向上し、かつては困難であった「中山間地北部↔浜北・旧浜松」の通勤が可能となってきている。

地区ごとの産業別就業者比率を比較すると、旧浜松市と遠州鉄道と直結 30 分の天竜区は別格として、水窪・佐久間は 1 次産業が一桁で 2 次産業比率が高く似通った傾向を示している。また、龍山と春野は、第 1 次産業比率が高く、お茶、シイタケなど希少な平地を活用した特産品生産が盛んであることを象徴した数字となっている。

しかしながら、いずれの地区も、一度高校・大学への進学を契機に地域を出て行った子どもたちが安心して帰ってくることができる雇用が十分ではなく、最大の地域課題となっている。

図表 3-4-15 各地区の「地域力」「教育力」関連分野の概要

		天竜地区	春野地区	龍山地区	佐久間地区	水窪地区	引佐地区
人口(人)		21,316	5,690	972	4,927	2,960	3,700
年齢別	-14	10.4%	8.5%	4.7%	6.4%	6.3%	8.7%
	15-64	59.3%	51.6%	36.4%	44.6%	46.6%	56.4%
	65-	30.3%	39.9%	48.9%	49.0%	46.9%	34.8%
世帯		7,481	1,982	394	2,129	1,255	1,099
交通	鉄道	遠州鉄道 (5本/時間) 天竜浜名湖鉄道 (1本/時間)	なし	なし	JR 飯田線(1本 /2時間)	JR 飯田線(1本 /1時間)	天竜浜名湖鉄 道(金指駅、1 本/時間)
	バス路線	北遠線(水窪) 秋葉線(春野) 笠井線(浜松) 磐田天竜線 鹿島線 阿多古線 熊線、門原線 大白木線 佐久線、阿寺線	遠鉄バス(秋葉 線)、秋葉バス (秋葉線)、 自主運行バス (杉・川上線)、 100円バス(熊 切線、気田川循 環線、岩嶽線、 越木平線 他)	北遠本線(水窪 ⇄西鹿島、瀬尻 ⇄西鹿島)、 白倉線(瀬尻⇄ 白倉)	北遠本線(水窪 ⇄西鹿島) 佐久間線(西渡 ⇄中部天竜駅)	北遠本線(水窪 ⇄西鹿島) 市営バス池島 線(小畑⇄遠木 沢) 市営バス白倉 線(小畑⇄大 嵐、大野)	奥山線(奥山⇄ 浜松駅) 引佐線(気賀駅 前⇄浜松駅) 渋川線(渋川儀 光他⇄浜松駅) 自主運行バス (奥山、渋川)
	福祉バス等	スクールバス	スクールバス、 ふれあいタク シー	スクールバス 診療所患者輸 送バス、高齢者 等外出支援サ ービス	へき地患者輸 送バス(佐久間 病院⇄浦川・5 往復/日、⇄城 西・4往復/日)	へき地患者輸 送バス(上村・ 向島、西浦、塩 沢、門桁⇄水窪 1往復/月2回 ～週2回)。ス クールバス	スクールバス
	道路等	R152、R362 天竜東栄線	R362 袋井春野線	R152 県道白倉線、県 道天竜大輪線	R152、R473 飯田富山佐久 間線、天竜東栄 線、県道水窪羽 ヶ庄佐久間線	R152、 県道水窪森線	R257、R362 県道渋川鳳来 線、県道渋川都 田停車場線、県 道引佐新城線 他
教育	幼稚園	7園(20学級・ 246人)	3園(66人)	1園(3人)	3園(9学級・58 人)	1園(31人)	5園(199人)
	保育園	3園(定員220 人)	なし	なし	なし	なし	1園(定員80 人)
	小学校 (学級数/ 生徒数)	熊(3/13) 上阿多古 (4/28) 下阿多古 (6/93) 横山(5/44) 鏡山(5/43) 光明(13/350) 二俣(15/327)	犬居(5/55) 熊切(4/38) 春野北(4/11) 気田(6/104)	龍山第一 (3/31)	浦川(5/51) 佐久間(5/46) 城西(4/23)	水窪(6/73)	井伊谷 (13/318) 金指(7/134) 奥山(7/110) 伊平(4/37) 川名(3/22) 田沢(5/55) 渋川(3/15) 久留女木 (3/14)
	中学校	清滝(11/325) 光が丘 (10/253)	春野(3/138)	なし(光が丘)	佐久間(4/92 (発達学級含 む))	水窪(3/56)	引佐南部 (11/331) 引佐北部 (3/37)
	高校	二俣 天竜林業	春野	なし	佐久間	なし	引佐
	その他	県立天竜特別 支援学校		子育て支援セ ンター			

		天竜 地区	春野 地区	龍山 地区	佐久間 地区	水窪 地区	引佐 地区
医療・福祉	病院	天竜すずかけ病院	なし	なし	国民健康保険佐久間病院	なし	引佐赤十字病院
	診療所数	15+歯科 5	5+歯科 2	1+歯科 1	3+歯科 2	2+歯科 1	11+歯科 6
	高齢者福祉施設等	9(地域包括支援センター含む)	5()	1(龍山保健センターに集約)	8	1	10
買い物	ショッピングセンター、スーパー等	遠鉄スーパー天竜店、あつみ、天竜ファミリータウン他	なし(食料品店等のみ)	なし(食料品店等のみ)	スーパー浦河店	こでら、まきうち、山道商店	バロー引佐店、A コープ引佐店、マルモスーパー
	買い物概況	地元スーパーが充実しているが、隣接する浜北地区への流出傾向も顕著。	浜北地区、旧浜松地区への流出が 50%を超え、地元商店の購買率が大きく減少している。	道路整備により、天竜、浜北などへ購買行動が流出。地元商店の売り上げは減少傾向。	愛知県(新城市等)への流出が最も多いが、地元商店もそれなりに健闘している。	浜北地区への購買流出が多く、地元購買が大きく減少傾向にある。通信販売の利用が高い。	旧浜松市、旧細江町への流出が目立つ。中山間地→細江圏 30 分、旧浜松圏 1 時間。
就業者数		10,942	3,028	540	2,209	1,392	2,316 (中山間地)
産業別	1 次	5.8%	19.5%	20.2%	7%	9.1%	25.6%
	2 次	40.3%	31.6%	31.3%	37%	37.6%	36.3%
	3 次	53.7%	41.6%	48.5%	56%	53.1%	37.6%
雇用概況		製造業、卸・小売業等で旧浜松、浜北に通勤。	林業と、茶・しいたけなどを中心に農業が盛ん。	地区内就業者は 26%、3/4 は地区外へ通勤。	企業の撤退、廃業による就労機会減少が深刻。	林業従事者はわずか 3.4%。誘致企業の撤退が相次ぎ、雇用問題が深刻。	農業は高齢化により耕作放棄地が増加。2,3 次産業の拠点は南部に集中。
行政施設		区役所、保健福祉センター、天竜勤労青少年ホーム 等	地域自治センター、福祉センター、防災センター	地域自治センター、保健センター、総合センター、老人福祉センター	地域自治センター、保健福祉センター、就業改善センター	地域自治センター、保健福祉センター	地域自治センター、渋川生活改善センター 他
教育施設・体育施設等		天竜壬生ホール、天竜図書館、秋野不矩美術館、内山真龍資料館、天竜体育館、天竜武道館 他	文化センター、春野図書館、春野歴史民族資料館、白井鐵道記念館、	森林文化会館、郷土文化保存伝承施設、健康増進センター	歴史と民話の郷会館、佐久間図書館、佐久間民族文化伝承間、さくま郷土遺産保存館、瞑想館	水窪文化会館(図書館併設)、水窪民族資料館、水窪カモシカと森の体験館、水窪総合体育館、水窪弓道場	多目的研修センター、引佐図書館、引佐総合体育館、奥山体育センター、スボルテン
地区産業・雇用の推移		古くより、林業や物資の水運の集積所として賑わう。木材生産と製材業えお中心とする林業の町として栄えた。	犬居地区は天竜・浜北に近く都市機能が充足。熊切・気多地区はお茶や自然環境を活かした観光が中心。	秋葉ダムの工事(S29～33)、峰之沢鉱山(S31 最盛～44年閉山)で賑わった町も、現在は茶等 1 次産業主体。	佐久間ダムの建設により、S20 年代から地域の雇用の中心であった。現在工事は落ち着き、関連事業者も撤退。	信州街道(塩の道)、秋葉街道などの宿場・交通の要衝として賑わう。S30 年飯田線の迂回により町が拡張。	南部は浜松都市圏住宅地、北部は農林業中心の中山間地。
観光・集客施設		天竜川の川下り。阿多古川流域は川遊び、アウトドア活動の拠点。	気田川流域を中心にアウトドア活動・スポーツの拠点。季節毎の景観も美しいフィールドとして、宿泊施設も立地。	歴史ある秋葉神社。秋葉ダムの千本桜・白倉峡の紅葉は有名。	佐久間ダムを拠点とする釣り、景観資源がある。	戦国時代の武將の足跡を刻む「水と緑と伝承の里」。復元された高根城、街道の町並みが残る商店街がある。	立ち寄り型観光が中心。方広寺や龍譚寺などの歴史資源、東海地方最大の鍾乳洞「竜ヶ岩洞」などがある。

<地域の現状（まとめ）>

以上の調査結果の整理を受け、各地域の概況を表に取りまとめると以下ようになる。
これら現状を踏まえた、「地域力」のありかたを検討する必要がある。

図表 3-4-16 各地区の「地域力」「教育力」関連分野の概要

	地域の特徴	定住条件、市民活動等
天竜	・北遠の中核。西鹿島～新浜松＝電車 30 分で通勤圏 ・二俣地区など平坦地あり	・遠鉄スーパー、病院など充実 ・天竜区役所、JA 直販所（山の市）など行政・経済機能も集積
春野	・気田川沿いに農地あり ・“奥”と言われる川上・杉地区と中心部とに格差	・奥の定住条件(学校、医療、買物)は厳しい ・春野中心部は秋葉神社、スポーツ拠点、宿泊・飲食施設がある(シイタケ・茶)。
佐久間	・中心部以外の集落が分散 ・ダム、鉱山が衰退後人口減少が続く	・中心部には佐久間病院・特養施設があるが、他の小規模集落は生活が厳しい ・NPO が生活支援（有償輸送、食堂）実施
水窪	・街道の宿場、林業の拠点として栄えたが、近年誘致企業・公的機関の撤退続く	・飯田線が通るが、生活路線ではない ・商店街は存続が危ぶまれる ・歴史・文化・食資源が豊富(交流の芽)
龍山	・集落規模が小さく、分散 ・地区に平地がほとんどない	・比較的天竜に近く、生活支援機能は主に天竜に依存 ・農業はお茶が中心。他に果実など
引佐	・南部は浜松市外の外縁にあたり住宅開発により人口増、北部は中山間地	・北部は定住条件はきびしく、生活支援機能を南部や浜松に依存。